

1 改めてヒトの科学の“いま”を考察する……………岡田 節人……………1

一 ヒトの科学の登場とそれへの期待……………2

二 ヒトの科学のなかの今日的テーマの二つ……………4

三 テクノロジーの対象としてのヒトそのもの……………8

四 「生物学的」倫理を求めて……………10

2 ゲノムからみるヒト……………中村桂子……………15

はじめに——ヒトと人間……………16

一 生命科学の問題点……………17

二 生きものの一つであるヒト……………25

三 生きものとしてのヒト研究の現状……………27

四 ゲノムは遺伝子系か……………30

五 ゲノムを単位とする……………32

六 私を考える	43
七 「生命誌」の提唱	51
八 より人間に近づく	56
3 類人猿からヒトに至る道……………長谷川政美……………	59
はじめに	60
一 比較形態学と分子系統学	62
二 類人猿のなかにおけるヒトの系統的位置	66
三 類人猿からヒトへ	75
四 現生人類の起源	84
おわりに	89
4 自と他……………笹月健彦……………	93
はじめに	94
一 免疫システムが持つ三つの特徴	95

二	自己―非自己の識別のための免疫システム枠組みの決定	100
三	免疫学的な自と他	105
四	免疫学的自己・非自己峻別の破綻	107
五	自と他	109
	おわりに	113
5	こころ・言語への科学的接近……………乾	
	はじめに	116
一	視知覚のしくみ	116
二	言語と記憶	132
三	言語の獲得と理解	137
四	こころの機能と神経機構	155
6	文化・文明を環境とする生物――ヒト……………福井勝義……………	163
一	ヒトの進化史から	164

二	焼 畑——自然のリズムを基盤にした生業	169
三	サバンナのウシ牧畜における自然との共存戦略	176
四	多様化選択のコスモロジー	183
五	多様性が生みだす豊かさ	193
六	グロ・ダイバーシティの構築	201
7	科学でみた日本人の形質………埴原和郎………	211
	——その二重構造化	
一	日本人とは	212
二	日本人研究小史	214
三	アイヌ系と沖縄系の人々	216
四	本土人の地域性	220
五	渡来人の数の推定	224
六	蝦夷と隼人	230
七	日本人は単一民族か？	236